［釈文］

安政二乙卯十月二日夜ヨリ　上下とも甲乙なし

●

大関（用）これで安心　穴蔵をたすけ
関脇　地めん内ニて　立退所そつくり
小結（る）らをはなして　平屋の庭附
前頭（ラ）宗方ろんなし　なげこミの花筒
前頭（も）御間のよい　恙ない神社
前頭　焼場方角　読うり
前頭（の）出かけた場所も　吉原の仮宅
前頭　その日　かねかり

家の崩れ　●ひツぱりだした命
蔵のあひだ　▲ひツぱりこんだ客
蔵のつくろひ　こてりやうぢ
大けが　同　こてりやうぢ
山の上　同　赤羽根の火ノ見
山の手　本郷のかうじ室
御休所　引手茶屋
お休　同　芝居茶屋
低イ　広徳寺の門
高イ　同　五重塔の九輪
大あたりノ　的場の野宿
小あたりノ　同　楊弓場

雷神　●あたらしいおつこち
風神　▲ふるびたふくろ
極閑　日ようの口入
極際　〃　奉公人の口入
ことし　ぢしんノはなし
来ねん　〃　縁だんばなし
かつをぶし　よたかそば
丸つぶし　〃　よたかごや
半鐘　大紋附半天
大鼓　〃　大門内羽織
四文　両国やたい
八文　〃　やすいもの

編笠なし　●しつきの売物
お銭なし　▲御めいこう
御守の　あなほり
どてらの　〃　あなあき
留守中　神無月
留守居　〃　ゑびす講
百銭て　たちぐひ
つり　〃　たちこミ
うれ物　いもの問屋
なまけ物　〃　囲碁会所
吹出し　砂除の眼鏡
売出し　〃　手遊の鉄砲

地震　●よし
出火　▲あし

後日はなし

行　貫ひ溜た施行
年　山出しの木口
司　蔵を震た財布
寄　役者の旅行
元進勧　家作十工
諸芸遊民

▲

大関（おやのなミだ）　穴蔵をおとし
関脇（お）見るも哀れ　一ツ家の額面
小結　だんくへる　三階づくり
前頭（あ）かこゐもいびつ　なげいれの活花
前頭　うるさく来た　御めんのかんけ
前頭（ひ）二階ハけんのん　講談落語
前頭　ペンともいハぬ　町芸者
前頭（だ）鳥ハがア　くかねかし

平家だて　●こけら屋根
蔵ばかり　▲かハら屋根
いちぜん　井めし
八百ぜん　同　会席料理
ほしみせ　がらく
夜商人　同　御縁日
離へのり込　三まいの駕
山谷堀　同　猪牙船
小指の跡　いゝべべ
火盗両損　同　いゝべべ
不断ハうれぬ　棚さらしのひやめし
此節ハうれぬ　同　うらつけのせつた

ひもの　●四日市うれ物
た　い　▲十九日のくされ市
おんぼうノ　大取込
報恩ノ　〃　御取越
蔵づくり　しつくひ
御つくり　〃　おしろい
三尺帯　やけとまりの消口
三尺坊　〃　やけました秋葉
白馬　おでんやおでん
黒馬　〃　皮はぎめいわく
人も家も　つつかひぼう
たをれ升た　〃　極びんぼう

黒ウ人　●野でん講釈
白ウ人　▲天狗連
土木爪　灰をかいたすきくハ
角木爪　〃　弟子をちらした稽古
あったかい　こしあんの大ふくもち
さむい　〃　野宿のせんきもち
やけハらの　たき火
今年できた　〃　たきノ水
安く成た直　くひてのあるさんま
高く成た道　〃　もミてのないあんま
われもく　寄てくる釘ひろひ
評判く　〃　面ラをぬった物貰ひ

博覧堂禁売